

坂上遺跡採集の顔面突起付土器

藤森 英二

はじめに

北相木村の縄文遺跡と言えば、早期を中心とした栃原岩陰遺跡が著名であるが、現在の坂上・中尾地区に所在する坂上遺跡からも、多量の遺物が採集されていた過去がある。

しかし発掘調査は1998年に行われたのみで、調査面積は遺跡全体のごく僅かである約60㎡に過ぎない小規模なものであった。にもかかわらず、縄文早期～後期、平安時代の遺物が出土し、遺跡の内容の豊かさをうかがわせた（北相木村教育委員会2000）。中でも出土量の多かったのが、縄文中期中葉前半（概ね猪沢・新道・藤内式、勝坂Ⅰ～Ⅱ式）に該当する土器で、阿玉台式や焼町土器を含む多様な展開を見せている（井出2018、藤森2019等）。尚、同様の様子は、村内の宮ノ平遺跡や跡芝遺跡でも確認されている（芹沢2021）。

本論では、この坂上遺跡で採取された、顔面突起を持つ資料を紹介したい。

尚、掲載した図版は、Agisoft社のMetashapを用いたフォトグラメトリによる3Dモデルをもとに、オープンソースのCloudCompareで断面を算出し、両者を適宜配置したものである。

資料の詳細

本資料は北相木村考古博物館開館時（1992年）より展示されていたものであるが、内側に「昭和33.6.28」と注記されており、採集されたのはその頃であろう。



図1 坂上遺跡位置図

また「中穂のみね」と見えるが、これは現在の中尾地区のことであり、上述の坂上遺跡の範囲に含まれる。

口縁部を含む破片で、口縁径（内径）はおおよそ20cmと予想される。内面は、横方向に丁寧な調整がなされている。

円形で板状の突起部は、直径約6.7cm。最上部は欠損がある。断面は平面的であるが、内面には太い隆帯によるドーナツ状の縁取りがある①。外面も隆帯が外周にあり②、左上には刻みが付けられている。上部中央には径約2.5cmの渦巻き状の隆帯があり③、中央より下に、特徴的なM字状の隆帯がある④。これが後に述べるように顔面表現である事を想起させるが、目鼻口の表現はない。

顔面突起の下部には、M字状隆帯に直接接続するかたちで双環把手がある⑤。口縁部文様帯は、顔面突起と双環把手を除き無文である。

胴部文様帯には、幅の広い押引文と、角を持つ幅の狭い押引文が隆帯に沿って施文される。また双環把手下部には、円形刺突を囲むように幅の狭い押引文があり、さらにその外側にも波状の施文がある。その両側には三角の印刻文と円形刺突が組み合わせられ、複雑な文様を描いている⑥。

胴部下の中央では、隆帯がカーブを描きながら下方方向に伸びるが、小松隆史氏の見解では、これは所謂「抽象文」の一部であるという。

尚、施文の順番は、粘土の重なりや施文の切り合いから、①→②→⑤→③④→⑥と考えられる。つまり、顔面突起と双環把手の位置決めが先で、その後胴部の施文に移っていると指摘できる。

時期は藤内式の前半としておきたい。

類例

中期中葉の顔面突起の類例は、中部高地から西関東で多いが、本村では現在のところこの一例のみであり、近隣である南佐久南部の山間部でも管見の限り例がない。

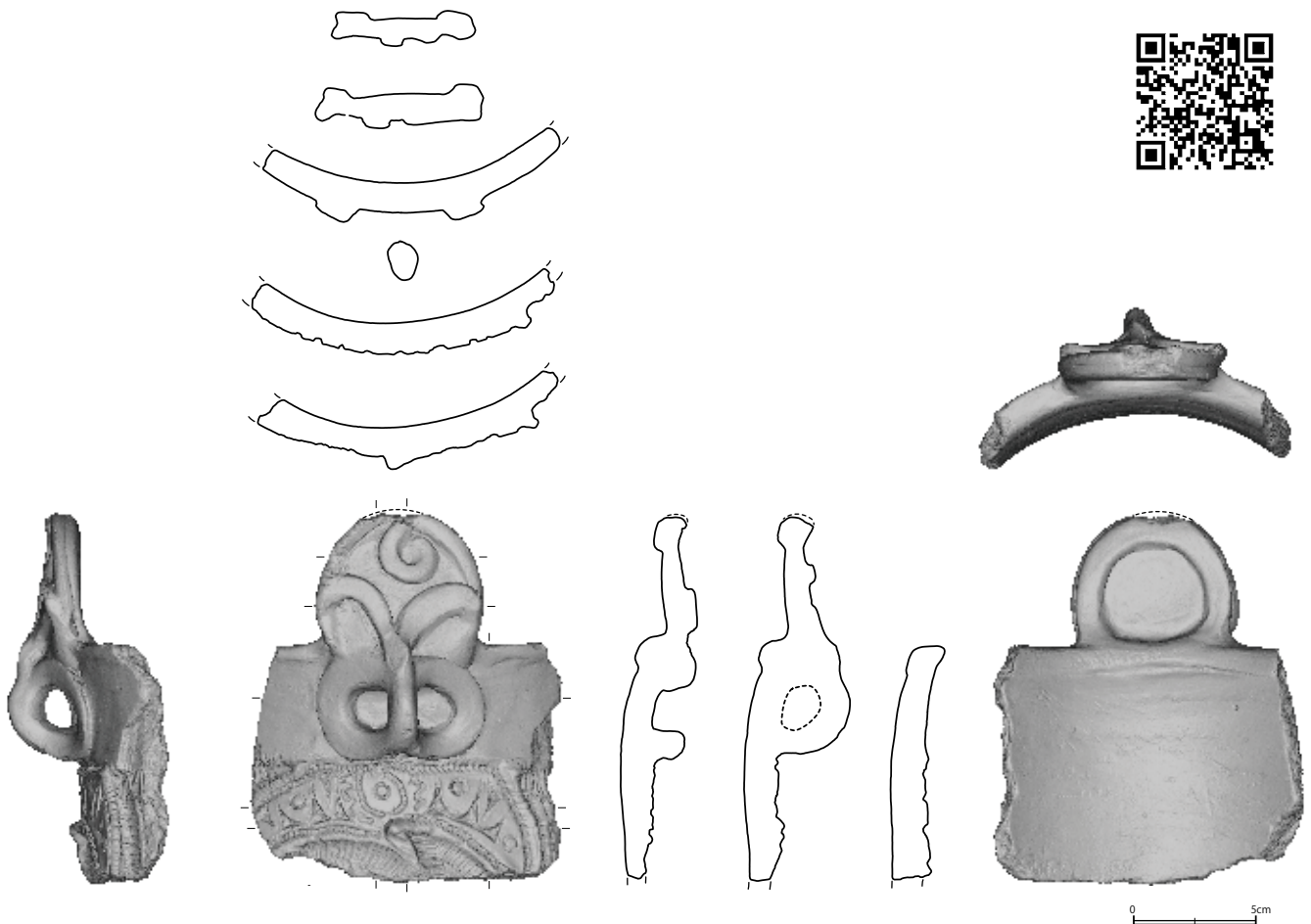


図2 坂上遺跡出土 顔面突起付土器 (S=1/3)

「出産土器」としても著名な山梨県北杜市の津金御所前遺跡や長野県伊那市月見松遺跡の例など、中期中葉後半では1単位で内面を向く顔面突起の例が多いが、中期前葉の五領ヶ台式期から中葉前半の猪沢・新道式期では、顔面が外側を向く物や、本例に似たM字状隆帯のみの顔面を器壁に複数付した類例が多い。

また、長野県富士見町の久兵衛尾根遺跡の例（井戸尻考古館考古館 2017）では、顔面表現にこそ違いがあるが、突起内面のドーナツ状の縁取りや、直下の双環把手、胴部の抽象文など、類似点も多い。

小杉康は、前期後半諸磯期の4単位の獣面突起から、前述した「出産土器」に至る過程を考察しているが（小杉 2007・2008）、その過程の中において、胴部の抽象文を含め、本例がどう位置付けが可能か、今後検討していきたい。

付 記

本資料の分析や類例については、井戸尻考古館館長の小松隆史氏に有益なアドバイスを頂きました。御礼申し上げます。またその際、3Dモデルを利用することで、スムーズな情報交換が可能だったことを記しておきます。

尚、本資料の3Dモデルは、オリジナルからポリゴン数を減らしたデータを、Sketchfabの「北相木村考古博物館3D」内で閲覧・利用が可能です。（<https://sketchfab.com/3d-models/002-a1552b4d4cac4245806e935d214d88ab>）

参考文献

- 井出浩正 2018「旅する縄文土器―北相木村坂上遺跡出土の阿玉台式土器―」『北相木村考古学博物館報』Vol.1
- 北相木村教育委員会 2000『坂上遺跡』
- 小杉 康 2007「物語性文様 ―縄文中期の人獣土器論―」『縄文時代の考古学 11 心と信仰』同成社
- 小松 学 2008「顔面把手」『総覧 縄文土器』（株）アム・プロモーション
- 芹沢一路 2021「跡芝遺跡出土の縄文土器について―縄文時代中期の千曲川最上流域へのアプローチ―」『北相木村考古学博物館報』Vol.4
- 井戸尻考古館考古館 2017『井戸尻の縄文土器第6巻』
- 藤森英二 2019「相木の谷の縄文時代中期土器について」『北相木村考古学博物館報』Vol.2